

資料2

第3回草津市あんしん
いきいきプラン委員会

介護予防・地域づくりを進めるために ～生活支援体制整備事業について～

草津市 長寿いきがい課
地域保健課

草津あんしんいきいきプランの概要

策定のポイント

- 本計画は、老人福祉法および介護保険法の規定に基づく、高齢者福祉計画・介護保険事業計画として策定するものであり、すべての高齢者が住み慣れた地域で安心して生活するために、高齢者に関する各施策の総合的な推進を図ることを目的に策定
- 団塊の世代が75歳以上となり、介護等の需要が急増すると見込まれる平成37(2025)年に向けて、医療、介護、介護予防、住まいおよび自立した日常生活の支援が包括的に確保される「地域包括ケアシステム」の構築に向けた道筋を示すための計画
- 平成29年度の介護保険制度の改正にあわせ、「地域包括ケアシステムの深化・推進」および「介護保険制度の持続可能性の確保」に資する取り組みを進めることが重要
- 目標数値として、「『あんしん』して高齢期を生活できると思う市民の割合の増加」および「高齢期を『いきいき』と暮らすことができると思う市民の割合の増加」を設定

計画の枠組み

理念	すべての市民が人として尊重され、一人ひとりがいきいき輝き、安心して暮らすことのできるまちづくり
期間	平成30～32年度
計画の柱立て	第1章 計画の策定にあたって 第2章 高齢者等の現状と将来推計 第3章 第6期計画における事業の実績と評価 第4章 計画の基本的な考え方 第5章 あんしんいきいきプラン 第6章 介護保険の事業費の見込み 第7章 計画の推進
目標	“『あんしん』して高齢期を生活できる”と思う市民の割合 現状値 20.9%(平成28年度) → 計画期間目標値 25.0%(平成32年度) → 目標値 30.0%(平成37年度) “高齢期を『いきいき』と暮らすことができる”と思う市民の割合 現状値 25.8%(平成28年度) → 計画期間目標値 30.0%(平成32年度) → 目標値 35.0%(平成37年度)

計画に基づく取組

※【】内は、重点施策目標値 ※※《》内は介護給付適正化目標値

① 地域包括ケアシステムの深化・推進体制の構築

【生活支援体制整備事業における協議体設置数】

現状値 0学区(平成28年度) → 目標値 14学区(平成32年度)

【入退院時における医療機関とケアマネジャーの連携割合】

現状値 70.9%(平成28年度) → 目標値 80.0%(平成32年度)

- 地域で助け合える基盤となるネットワークづくりを進め、住民主体の活動を支援し、高齢者の生活を包括的に支える仕組みづくりを進めます。
- 医療・介護をはじめ、高齢者を取り巻く多職種連携のもと、在宅医療基盤の充実を進めます。

主な事業：生活支援体制整備事業の推進、在宅医療・介護連携の推進 等

② 健康づくり・生きがいづくり・社会参加の促進

【地域での活動に参加する高齢者の割合】

現状値 71.4%(平成28年度) → 目標値 80.0%(平成32年度)

- 「健幸都市」の実現を目指し、健康づくり・生きがいづくり・社会参加の観点で、地域での住民主体の取組みを推進します。

主な事業：「健康くさつ21(第2次)」の推進、地域の特性に応じた健康づくりの推進、高齢者の生きがいづくりの推進 等

③ 介護予防の推進

【いきいき百歳体操、草津市口からこんにちは体操、転倒予防教室実施団体数】

現状値 230団体(平成28年度) → 目標値 250団体(平成32年度)

- 身近なところで介護予防に取り組める「通いの場」の充実を目指します。
- 要支援・要介護状態になるおそれのある高齢者に効果的な介護予防を進めるために、ケアマネジメントの充実と質の向上を図ります。

主な事業：介護予防応援事業の推進、通所型短期集中予防サービス 等

④ 高齢者の住まい・生活環境の整備

- 高齢者の状況に応じた適切な住まい・居住環境が確保され、安心して生活できる環境整備に取り組めます。

主な事業：特別養護老人ホームの整備、高齢者が安心して暮らせる住まいの確保 等

⑤ サービスの質の向上と円滑な利用の推進

《国の示す介護給付適正化主要5事業を継続して実施します。》

- 住み慣れた地域での生活ができるよう、高齢者福祉サービスの充実を図るとともに、介護サービスの質の確保・向上に向けた取組を進めます。

主な事業：高齢者福祉サービスの充実、介護給付費通知の実施 等

⑥ 認知症対策の推進

- 認知症があっても安心して生活できるまちの実現を着実に進めるため、「草津市認知症施策アクション・プラン」を策定し、本計画に掲げる事業を更に細分化し、個別具体的な取組を進めま

主な事業：認知症サポーターの養成、徘徊SOSネットワークの拡充、認知症の発症予防の啓発、若年性認知症の人への支援 等

基本目標 1 地域包括ケアシステムの深化・推進体制の構築

基本施策（１）

地域ケアネットワークの構築

【現状・課題】

- 今後、高齢者のひとり暮らしや高齢夫婦のみの世帯、重度の要介護者、認知症高齢者など、支援を必要とする高齢者の増加が見込まれることから、これまでの取組みを踏まえつつ、さらに地域包括ケアシステムの深化・推進を図る必要があります。
- ひとり暮らし高齢者等が地域で安心して暮らすためには、日頃からきめ細やかな見守りを行い、支援が必要な状況が生じた場合には早期に発見し適切な支援につなげることが必要です。
- 地域住民と行政などが協働し、地域や家庭・個人が抱える生活課題を解決していくことができるよう、地域共生社会の実現に向けた「我が事・丸ごと」の包括体制の整備について、市の関係部署や関係機関、関係団体、地域等とともに検討を行う必要があります。

【施策の展開】

- 住民が地域の関係者を交えて地域の課題を共有し、「我が事」と捉え、課題解決に向けて話し合う場を持ち、高齢者をはじめ、生活上の困難を抱える要介護者を地域で「見守り・見守られ」、「支え・支えられる」ネットワークづくりを進めます。

基本施策（２）

助け合い・支え合い活動の充実

【現状・課題】

- 高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を可能なかぎり継続できるようにするためには、介護保険サービスだけでなく、住民等の多様な主体が参画し、身近な助け合いや孤立化を防止するための見守りなど、地域の支え合い、助け合いの体制づくりを進める必要があります。
- 住民やボランティアによる助け合い・支え合い活動は、決して専門職によるサービスの代替ではなく、「支え・支えられる」という相互の仕組みの中で地域における人と人との絆やふれあいを生み出し、生きがいや介護予防につながることから、これらの取組みをさらに進めていく必要があります。

【施策の展開】

- 助け合いの基盤となる、ネットワークの構築や、地域の困りごとや助け合いの必要性について住民同士の共感を進め、その中から住民の主体性・自主性を持った活動が生み出されるよう支援します。

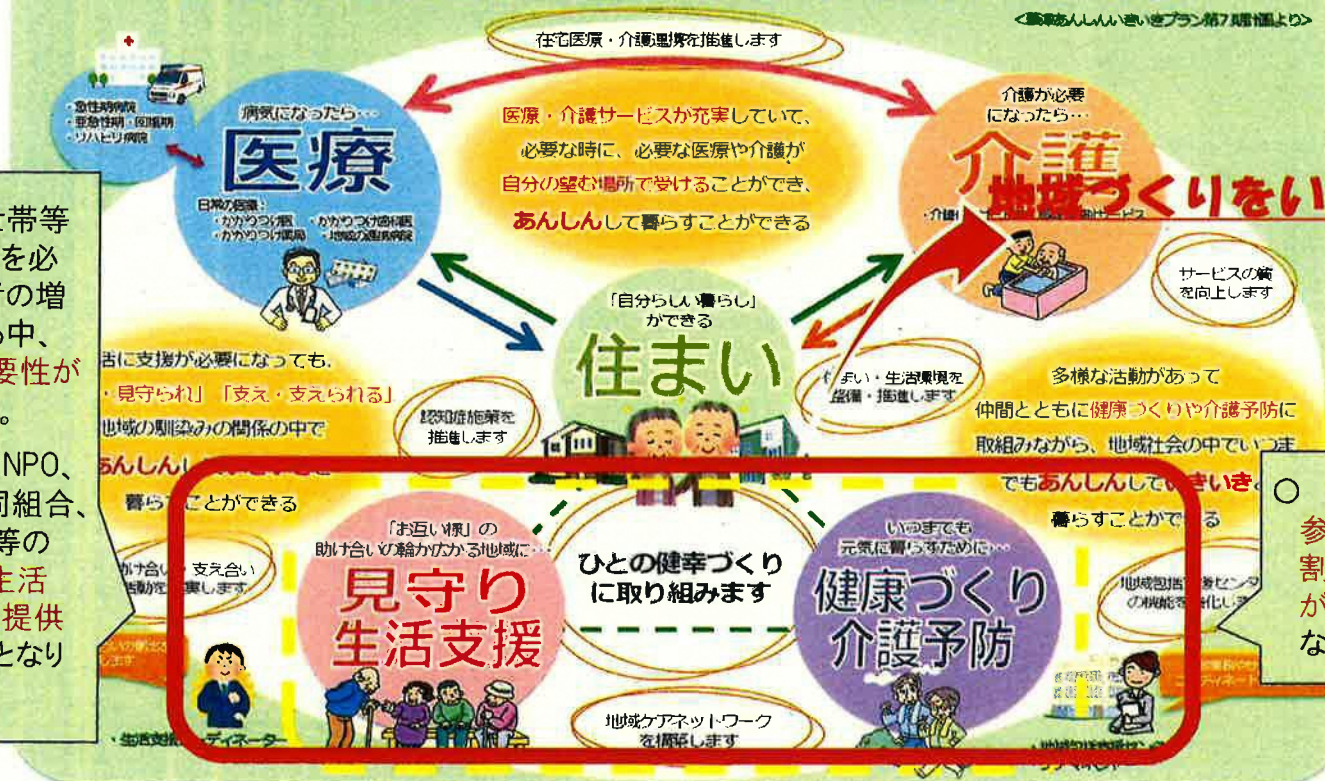
具体的事業として

事業番号	事業名称	事業内容
2	生活支援体制整備事業の推進	市社会福祉協議会に生活支援コーディネーターを配置し、様々な主体が集まる協議体において、住民等の多様な主体が参画し、地域の支え合いとなる「ネットワークの構築」や「支援ニーズと取組みマッチング」、「地域資源の創出」が進められるよう、地域の実情に合わせた支援を行います。

地域包括ケアシステムの構築について

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制(地域包括ケアシステム)の構築を実現することが望まれます。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要となります。
- 京阪神のベッタウンとして発展した本市は、すぐに人口減少しないものの、今後、75歳以上人口が急増し、支援を必要とする高齢者の増加が予測されます。
- 地域包括ケアシステムは、保険者である市が、地域の自主性や主体性に基つき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要。

草津市がめざす地域包括ケアシステムの姿

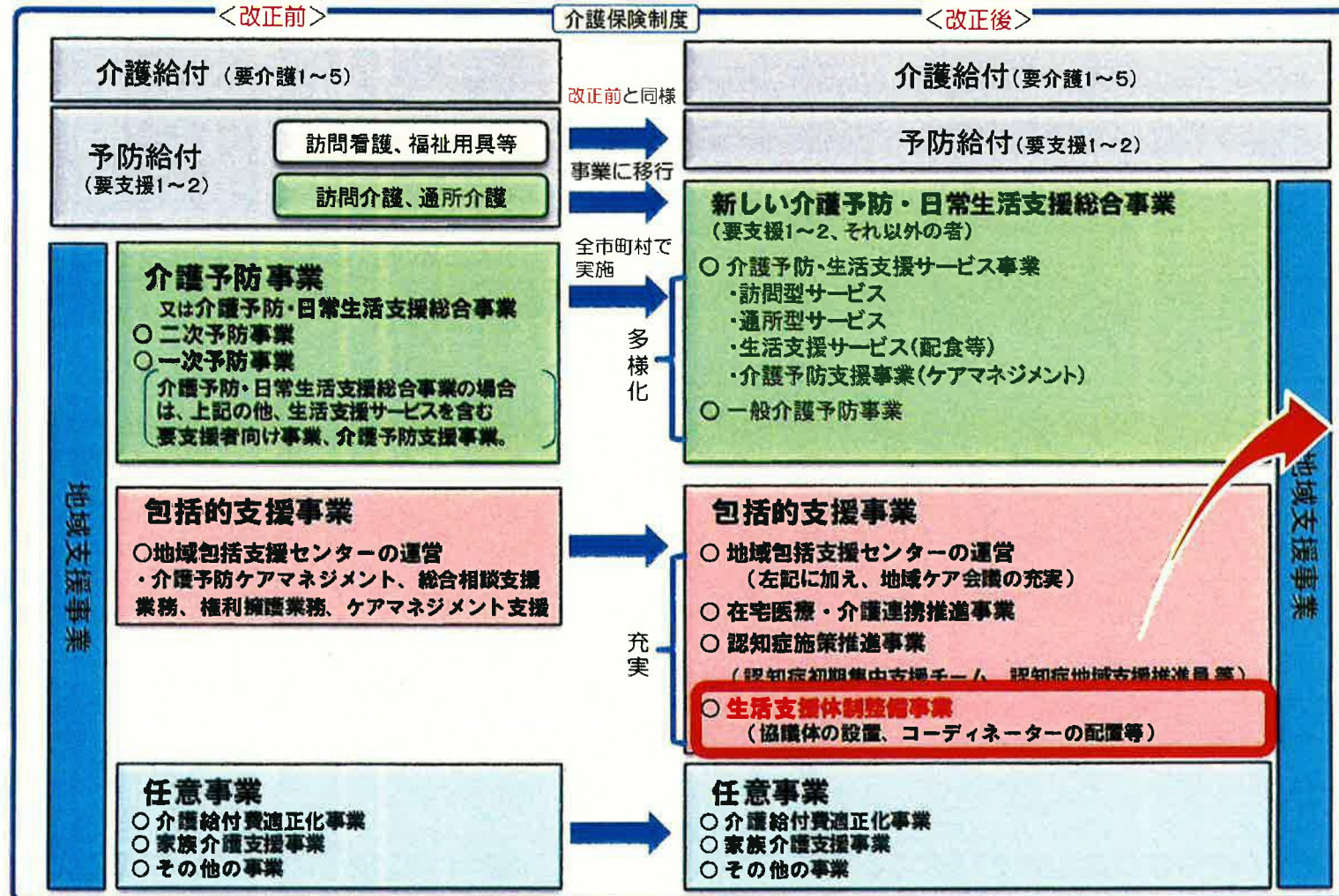


- 今後、単身世帯等が増加し、支援を必要とする高齢者の増加が予測される中、生活支援の必要性が増大しています。
- ボランティア、NPO、民間企業、協同組合、社会福祉法人等の多様な主体が生活支援サービスを提供することが必要となります。


- 高齢者自身も社会参加をし、社会的役割を持つことが生きがいや介護予防につながります。

介護保険制度の改正について

- 平成27年度の介護保険制度の改正により、地域支援事業の内容が見直され、包括的支援事業に新たな事業が追加されました。こうした中、新たな事業の一つとして、「生活支援体制整備事業」が位置付けられました。
- 市は、平成29年度から「生活支援体制整備事業」を実施しており、この事業を通じて、高齢者の社会参加を通じた介護予防活動や地域における多様な生活支援の展開・充実を図り、地域包括ケアシステムを深化・推進を目指しています。



○ 具体的には、市が中心となって、「協議体」の設置や「生活支援コーディネーター」の配置等を通じて、生活支援サービスの開発・創出に取り組んでいきます。



「地域」の視点で見る介護保険改正のポイント

背景の理解

今のやり方のまま、介護保険を続けていると…

- 保険料がどんどん高くなってしまう！
- サービスの質の確保が難しくなる！

どうすればよいのか？

- 必要な人に適切なサービスがつながる仕組みづくり
- 介護予防を推進できる地域づくり

└ 社会参加の場を増やして、みんなで助け合う環境の整備

まずは地域の基盤づくりを考える

→ 生活支援体制整備事業

生活支援・介護予防の体制整備におけるコーディネーター・協議体の役割

(厚生労働省の資料より一部加工)

生活支援・介護予防の基盤整備に向けた取組

(1) 生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）の配置

⇒多様な主体による多様な取組のコーディネート機能を担い、一体的な活動を推進。コーディネート機能は、以下のA～Cの機能があるが、当面AとBの機能を中心に充実。

(A) 資源開発	(B) ネットワーク構築	(C) ニーズと取組のマッチング
<ul style="list-style-type: none"> ○地域に必要な支え合い活動の創出 ○支え合い活動の担い手の養成 ○元気な高齢者などが担い手として活動する場の確保 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○関係者間の情報共有 ○サービス提供者や支え合い活動者等の主体間の連携の体制づくり など 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の支援ニーズとサービス提供者や支え合い活動者等の活動をマッチング など

※（第2層）生活支援コーディネーターは市社協に委託し配置し、市役所、地域包括支援センターと連携しながら、当面はAとBの機能めざし取組を推進中



(2) 協議体の設置 ⇒多様な関係主体間の定期的な情報共有及び連携・協働による取組を推進

生活支援・介護予防サービスの多様な関係主体の参画例



エリアとしては、第1層としての市全域、第2層としての日常生活圏域(14小学校区)を設定。

- ①第1層 市全域で、主に資源開発(地域に必要な支え合い活動の創出・養成、活動する場の確保)に向けた方向性や推進するための施策等の検討
- ②第2層 日常生活圏域(14小学校区)で、具体的な活動を展開を目指す

本市における協議体・コーディネーターの配置・構成のイメージ（案）

※SCとは 生活支援コーディネーター

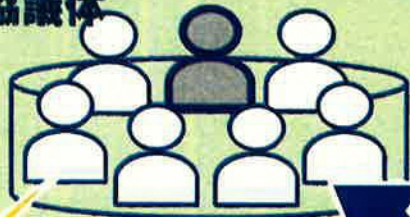
第1層（市域全域）

草津市あんしんいきいきプラン委員会

（= 第1層協議体）

第1層SC(長寿いきがい課)

第1層協議体



【設置目的】

生活支援・介護予防サービスの体制整備に向けて、第2層協議体の設置に向けた方向性の共有、進捗状況の確認等を行うとともに、資源開発（地域で必要な支え合い活動の創出）を推進するための施策等の検討を行うことにより、各学区(第2層)の取組を市全域に波及させる。

【役割】

- ◎企画、立案、方針策定を行う場
- ◎地域づくりにおける意思統一（方向性の共有）の場
- ◎地域づくりを推進するための施策等の検討

第2層（小学校区）

第2層SC

第2層SC

第2層SC



第2層協議体

第2層協議体

第2層協議体

協議体は「学区の医療福祉を考える会議」とし、SCは市社協へ委託

【あんしんいきいきプランにおける重点施策目標】

地域の暮らしの問題を「我が事」と捉えて話し合える場を増やします！

【生活支援体制整備事業における協議体設置数】

現状値

目標値

0 学区

→

14 学区

(2016年度)

(2020年度)

【役割】

- ◎地域資源の発見・新たな創出
- ◎有機的なネットワーク化
- ◎ニーズと取組のマッチング



基本施策(1)地域ケアネットワークの構築 基本施策(2)助け合い・支え合い活動の充実

事業

2 生活支援体制整備事業の推進

目的

地域における様々な関係者のネットワークを構築し、お互いに声かけや見守りを行うことで、支援を必要とする高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる。

内容

市社会福祉協議会に生活支援コーディネーターを配置し、様々な主体が集まる協議体において、住民等の多様な主体が参画し、地域の支え合いとなる「ネットワークの構築」や「支援ニーズと取組みマッチング」、「地域資源の創出」が進められるよう、地域の実情に合わせた支援を行います

○地域づくりの推進に向け高齢者の暮らしの問題を「我が事」と捉えて話し合う(共感→共考→共働)場を増やしています。

○小学校区毎に「学区の医療福祉を考える会議」を開催。H31.1月末現在 12小学校区で開催。

〔STEP1 共感・共考〕

○認知症高齢者や要介護で支援が必要な高齢者にとって、声掛け・見守り・ちょっとした手伝い・居場所があれば地域で生活ができることを共有。

○見ず知らずの他人には、なかなか声がかけれない。まずはお互いを知るために、サロン等の活動を通じて、つながりをつくり・広げる。

○いざという時に“助けて”と言える関係づくり、抱え込まない関係づくり。

○町内会単位の活動を広げ、地域なりの見守り活動を深めよう。

〔STEP2 共働〕

今後、居場所をはじめ、声掛け・見守り等の様々な活動“あったらいいな”を形にし、高齢者にやさしい地域づくりを推進する。

展望



地域づくりの推進

～学区の医療福祉を考える会議より①～

〔順不同 H31.1末時点〕

学区・地区	開催回数	現在の状況 等
笠縫東学区	(平成24年～) 計16回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・老・老介護者、独居高齢者、認知症高齢者の生活課題等について意見交換を繰り返し実施。(～H27まで4年間 計11回) <p style="text-align: center;">▼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常から地域でつながりをもつことの重要性を共有(H28・H29) ・高齢者が集まる「地域サロン」等の活性化に向けた具体策を検討(H30) <p>[現状・課題]運営する人の高齢化、参加者の固定化、担い手不足 ※新たな地域メンバーの出席者を増やし、共感・共考の輪を広げる</p>
老上学区	(平成24年～) 計16回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症に関する研修、事例を通じた地域の支援、認知症ケアパス・地域資源マップの作成など(～H28まで約4年間 計11回) <p style="text-align: center;">▼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で見守る仕組みとして交流を通じた居場所/拠点が必要(H29) ➡「地域支え合い運送支援事業」の開始、「カフェほっこり」の開催(H30) ・「ほっこり」では、介護事業所の協力により専門的な相談会が実現 <p>[現状・課題]運営に関して理解・協力できる人の育成・確保 それぞれの地域活動をつなげる取組みの検討</p>
老上西学区	(平成24年～) 計16回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症に関する研修、事例を通じた地域の支援、認知症ケアパス・地域資源マップの作成など(～H28まで約4年間 計11回) <p style="text-align: center;">▼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で見守る仕組みとして、町内会単位での交流が重要(H29) ➡「地域支え合い運送支援事業」事業の開始(老上学区と合同運営) <p>[現状・課題]町内会でつながりを広げるための方法について検討中</p>

地域づくりの推進

～学区の医療福祉を考える会議より②～

〔順不同 H31.1末時点〕

学区・地区	開催回数	現在の状況 等
山田学区	(平成25年～) 計15回 開催	<p>※高齢化率が高く地域の方の危機感があり、支え合い活動が展開されている地域。 〔現状・課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動のすばらしさについて地域の方に十分理解されていない。その結果、新たな活動者が増えず過度な負担となってきた。 ・地域に迷惑をかけられないとの思いもあり、認知症を公言しづらい。 <p>▷高齢者の暮らしの問題や、地域の多様な支援活動等の理解を深め、地域ぐるみで、困った時には「助けて」と言える関係づくりの啓発が必要。</p>
志津学区	(平成27年～) 計14回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・志津のあんしんつながりノートの作成・配布など(～H29まで 計11回) ・認知症になっても安心なまち志津を考える(H30～) <p style="text-align: center;">▼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座の開催、地域安心声かけ訓練の実施につながる <p>▷地域の様々な団体がつながり、さらなるネットワーク化を検討。 ▷地域安心声かけ訓練は定期的実施する必要があるという主体性が生まれる。</p>
矢倉学区	(平成27年～) 計9回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち上げ期より、認知症に関心が高く、町内会単位の様々な地域活動を周知し、広め「矢倉なりの見守り活動」の普及を目指す。 <p style="text-align: center;">▼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のつながりの場を見守りのベースとし、「憩(居場所/拠点)」を広める(H30～)

地域づくりの推進

～学区の医療福祉を考える会議より③～

〔順不同 H31.1末時点〕

学区・地区	開催回数	現在の状況 等
常盤学区	(平成27年～) 計8回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源マップの策定を通じて、学区の特徴を知り在宅介護生活について理解を深める(～H29まで 計6回開催) ・事例を通じて認知症になっても続けたい生活(サロン活動等)について理解を深める(H30) <p>〔現状・課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に迷惑をかけられないとの思いもあり、認知症を公言しづらい。 <p>▷元気なうちからサロン等への参加を通じて「助けて」と言える地域づくりを目指す</p>
渋川学区	(平成27年～) 計6回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源マップや認知症ケアパスの策定、事例を通じて、学区の特徴を知り、認知症について理解を深める。 ・町内会単位での啓発を目的に介護サービス事業所の協力による座談会「わいわいがやがや」を発足 ・「つながり」が、介護予防となり認知症ケアになると理解 <p>▷学区としてどのように「つながり」が広げられるか検討</p>
玉川学区	(平成29年～) 計4回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・「認知症」や「つながり」など4つのテーマで高齢者の暮らしの問題について理解を深める。 <p>▷今後、学区として、暮らしの問題の解決につながる取組を検討予定</p>
笠縫学区	(平成29年～) 計12回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・「認知症」に関する勉強会や研修等を開催。 <p>〔現状・課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・75才以上高齢者数が市内最も多い地域(9月末:1,605人14.72%) ・認知症等への関心は非常に高く、多数の方が研修へ参加 <p>▷今後、地域づくりに向けた会議へと展開していく</p>

地域づくりの推進

～学区の医療福祉を考える会議より④～

〔順不同 H31.1末時点〕

学区・地区	経緯・開催回数	現在の状況 等
南笠東学区	(平成28年～) 計5回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源マップの作成を通じて、学区の特徴を知り高齢者の暮らしの問題について理解を深める(～H29まで 計4回開催) <p>〔現状・課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域一体となった健康づくりに対して関心が高い ・まずは、高齢者の暮らしの問題について、明日は「我が事」と捉える共感を広げ、今後、地域づくりに向けた会議への進展を目指す必要あり。
草津学区	(平成30年～) 計2回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・「つながり」の大切さについて、共通理解を深める。 <p>〔現状・課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域として希薄化の実感があり、学区としてどのように「つながり」を広げられるか検討中。
志津南学区	第1回目を 開催予定 (平成30年度)	<p>〔現状・課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代が多い地域と高齢者世帯が多い地域と2極化している。 ・学区内の若草地域では、高齢化率が40%を超えており、主体的に居場所や支え合い活動に取り組まれている。 ▷高齢者に限らず、多世代の暮らしの問題という視点を持った地域づくりの会議開催を目指す。
大路学区	(調整中)	<p>〔現状・課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前地域でマンションが林立し希薄化が顕著。 ・町内会やマンション単位で展開されている地域サロンや百歳体操等の活動団体へのアプローチにより地域づくりに対する気運を高める必要あり。

渋川学区

医療福祉を考える会議 第1号

作成者：

渋川学区社会福祉協議会
草津地域包括支援センター
草津市地域保健課
長寿いきがい課
草津市社会福祉協議会

渋川学区の医療福祉を考える会議が、平成30年7月12日(木)に開催されました。

医療福祉を考える会議って？

「医療福祉を考える会議」では、地域住民と専門機関が、高齢者の暮らしの問題をテーマに、情報や思いを、ともに共有することを目的としています。渋川学区では、平成27年度から医療福祉を考える会議をスタートしており、今回で6回目の会議となります。

いつまでも渋川学区で、安心して暮らしていくために、顔の見える関係をつくりながら、高齢者の暮らしの問題や地域のことを「我が事」として共感していくことを大切にしています。



医療福祉を考える会議参加団体

渋川学区まちづくり協議会 渋川学区社会福祉協議会 渋川学区民生委員児童委員協議会
渋川北条寿会 渋川南かがやきクラブ



内田内科循環器内科 富田クリニック こばやし整形外科
やまみち耳鼻咽喉科 社会医療法人誠光会 指定居宅介護支援事業所きらら
滋賀県済生会訪問看護ステーションソナライト草津 たんぽぽ居宅介護支援事業所
看護小規模多機能居宅介護支援事業所 なでしこ草津 あやは居宅介護支援事業所草津
地域密着型小規模多機能居宅介護サービス フェイス 草津地域包括支援センター
草津市地域保健課・長寿いきがい課 草津市社会福祉協議会

第6回の会議では…

前回(第5回)の会議で、渋川学区の夢について語り合った際に、「ふれあいあふれるまち」「居場所があるまち」「多世代交流ができるまち」という意見がでてきました。そして、そのためには、「人と人とのつながりが必要」というご意見もいただきました。

そこで、今回(第6回)の会議では、「つながりの大切さ」を感じた体験など語り合った後、「どうしたら『つながり』が広がるか』について語り合いました。

前回のテーマ「渋川学区の夢」(主な意見)

- おいさつ・声かけができ、ふれあひあふれるまち
- いつでも・誰でも集まれる居場所があるまち
- 多世代が交流できる機会・場所があるまち

そのためには…

人と人とのつながりが必要

「つながり」の取り組み

- 子どもと交流が少ない方、身寄りがいない独居の方は心配。そういう方はあらかじめ把握して月1回訪問して様子を見ている。
- サービス担当者会議に民生委員に出席してもらった。何かあったときのことを考えて、対象者宅のキーボックスを設置することになった。
- 利用者のおうちのご近所や民生委員に挨拶をするなどして、専門職側でつながりをつくっておくこともある。

つながりたい…でも難しいときも

- マンションは外から見えにくい。マンション内での見守りも大事だし、つながっておくことは大切。でもそれが難しい。
- マンションの人は姿が見えないことも。案内を出しても、年1回の敬老会の招待でやっと会える程度の方もいる。
- 自分の情報を知ってほしい人もいるはず。でもマンションだとなかなかつながれないことも。



「つながり」の大切さを感じた経験

○マンションに暮らす高齢者の方で、同じマンションに住む方が「具合が悪い」ということを主治医の先生に話をされたら、草津包括支援センターにつながったということがあった。もともとのつながりがあったからよかった。

○自宅で転倒し骨折されている方がいた。誰にも連絡できず、緊急通報のコールも押せず、倒れたままになっていたが、8時間後に隣人が食事をおすすめしに行かれ、発見されたことがあった。それが無ければ…。



○（この前の）地震をきっかけに、マンションの住民同士で声のかけ合いがあった。声をかけてもええたことが嬉しかったという声があった。声かけも大事だと感じた。

○一人暮らし高齢者の方と連絡が取れなくなり、その方の娘（遠方に在住）が近所の方へ連絡をし、近所の方に様子を見に行ってもらったことで一命をとりとめることができた。

○遠方から母親を呼び寄せた方が、近所に挨拶にこられた。そのことがきっかけで、その母親に百歳体操などの地域の活動に参加してはどうかのお誘いの声をかけたことで参加されるようになり、母親も地域とつながりを持つことができた。

「つながり」を広めていくには…

○マンションの町内会で、年1回、居住地調査をしている。防災のため、というところを強調して、何人世帯、連絡先、年齢、自主防災組織の希望などを教えてもらっている。

○災害時の勉強会をきっかけに、つながりが生まれたこともある。マンションで災害用のお茶も用意している。○聴覚障害があり、話ができない人が町内にいる。

敬老会の粗品を手紙付きでポストインしたことをきっかけに顔見知りになり、お付き合いが生まれました。

ちよつとした機会を大切にすることも大事。

○地域の中で緊急時の連絡網の作成が必要ではないか。

私たちだけでは無理だな、と思うこともあると思います。皆さんも所属団体に持ち帰り、「どんなことができるかな？」と、ぜひ考えてください！



つながりを広めていくために、私たち一人ひとり、また各所属団体ではどんなことができるでしょうか？

次回の会議では、皆さんからの意見をもとに、「どんなことができるかな？」と一緒に考えていく予定です！

玉川学区・医療福祉を考える会議 ニユース

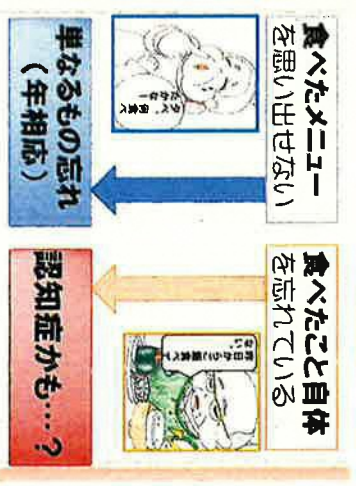
平成30年7月3日発行
発行責任者
玉川学区社会福祉協議会
玉川地域包括支援センター
草津市役所地域保健課
草津市社会福祉協議会

「認知症」をテーマに、第3回玉川学区医療福祉を考える会議が、平成30年6月7日（木）に玉川まちづくりセンターで開催されました。

認知症って？

認知症は年のせいではなく、脳の機能が徐々に失われていく「**脳の病気**」です。
・「もの忘れ」とは違い、「認知症によるもの忘れ」では、体験したこと全体の記憶をなくすことを指します。この他にも、時間や場所、人物が分かりにくくなったり、段取りをすることが難しくなったりしていきます。

認知症は、**早期に治療**をすることで、進行を緩やかにすることができると言われています。



認知症は身近な病気

国の研究によると、認知症は高齢者人口の約15%、認知症予備群※は高齢者人口の約13%と言われています。「高齢者の4人に1人」が認知症の高齢者か、認知症予備群となります。
身近な病気でもある「認知症」について正しく知ることが大切です。「もしかして？」と感じたときには、かかりつけ医に相談してください。

※認知症予備群とは、正常と認知症との中間の状態の軽度認知障害 (MCI) をさします



認知症の高齢者とその家族のやり取りについての寸劇を見た後で、感じたことや地域で何かできることはないかをテーマに話し合いました。

グループワークで持…

- ・かかりつけ医や地域包括支援センターに、早めに相談していくことも大事。
- ・家族が関わり方について学び、サービスを利用し距離をおくことで気持ち切り替えられることもある。周囲の人を頼ることも大切である。
- ・認知症高齢者の身体も気持ちも閉じ込めない。



Bグループ



- ・認知症高齢者本人にも何かしらの役割があるといい。
- ・認知症であることを周囲の人に伝えて、気持ちを楽しめたという声もあり、そんな関係づくりも大切。
- ・地域の活動に誘い出してもらう「なじみの関係」があると良い。
- ・元気な時からお互いを気にかける関係、つながる関係づくりが大切。
- ・少人数で認知症に関する勉強会があれば、他人事にならず、理解も深まるのではないか。

- ・地域で見守りをしていくためには、本人や家族が困っていることをオープンにすることも必要。
- ・専門医の話や映像を通して幅広い世代に認知症のことを知ってもらえると良い。
- ・本人の趣味を通して「生きがいづくり」につなげられると良い。



Dグループ

- ・家族もストレスを抱え込んで疲れている。
- ・専門医に本人だけではなく家族も受診し説明を受けることで病氣のことや関わり方について学ぶことができる。
- ・介護から離れる時間も必要である。
- ・健康な時から地域とのつながりをもてるようにしていく。



まとめ ～オープンな関係づくりを目指して～

今回のグループワークの中では、「認知症高齢者を鍵で閉じ込める地域にはなりたくない」という言葉や、「認知症であることをオープンにできる関係づくり」という言葉が生まれてきました。

「鍵をかけて閉じ込める地域」にならないために、認知症高齢者の家族が「家族が認知症なんや」と言えるような、日頃から「気持ちも体もオープンな関係性」を作っていくためにはどうしたら良いか、この会議を通じて皆さんと考えていきます。



「玉川学区・医療福祉を考える会議」では、地域住民と専門機関が、高齢者の暮らしの問題をテーマに、ともに情報や思いを共有することを目的としています。

いつまでも玉川学区で、安心して暮らしていくために、顔の見える関係をつくりながら、高齢者の暮らしの問題や地域のことを「わがごと」として共感していくことを大切にしています。

この会議に参加してくださっている皆様

- ▶ 玉川学区社会福祉協議会
- ▶ 玉川学区民生委員児童委員協議会
- ▶ 桜ヶ丘町内会
- ▶ 野路小川町内会
- ▶ 野路町内会
- ▶ ローレルコート南草津町内会
- ▶ 野路こたぶき会
- ▶ 野路小川町シニアクラブ
- ▶ 桜ヶ丘熟年会
- ▶ 玉川学区更生保護女性会
- ▶ 玉川学区健康推進員連絡協議会
- ▶ 日本赤十字奉仕団玉川分団



- ▶ 玉川地域包括支援センター
- ▶ 玉川ヌアイルクリニック
- ▶ 特別養護老人ホーム 萩の里
- ▶ 小規模多機能型居宅介護事業所 萩の里
- ▶ 萩の里居宅介護支援事業所
- ▶ ムラセ居宅介護支援事業所
- ▶ よつば訪問看護ステーション
- ▶ 草津市役所地域保健課・長寿いきかい課
- ▶ 草津市社会福祉協議会

次回会議の日程のお知らせ

第4回：平成30年10月19日（金）13:00～

（玉川まちづくりセンター）

玉川学区・医療福祉を考える会議 ニユース

平成30年11月13日発行
発行責任者
玉川学区社会福祉協議会
玉川地域包括支援センター
草津市役所地域保健課
草津市社会福祉協議会

「つながり」をテーマに、第4回玉川学区医療福祉を考える会議が、平成30年10月19日(金)に玉川まちづくりセンターで開催されました。

「つながり」が大切

玉川学区は、一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が急増しており、これまでの会議の中で「つながり」が大切であり、「顔の見える関係・近所で話し合える環境」をつくるため、「声かけ」や「身近な居場所づくり」が大切であるとの意見がありました。

今回は、他の学区で取り組まれている「つながり」をテーマにした活動も紹介しながら、「私たちが」・「町内で」・「学区で」少し工夫をしたらできることについて各グループで話し合いました。

グループワークでの意見の紹介



各グループで出てきた意見をまとめたものを紹介させていただきます。



- ・ 回覧板の対面での手渡し
- ・ 隣近所の人とあいさつや近況のおしゃべり
- ・ 身近な人に声をかけサロンなどに勧誘
- ・ 町内の行事への積極的な参加と交流
- ・ 困った時に声をかけてもらえるよう、顔なじみの関係づくり
- ・ ゴミ出しの声かけやお手伝い、日常の困りごとへのボランティア

「町内」で

- ・ 定年を迎えた人の地域デビューの機会としての交流会
- ・ 10軒ほどの小単位のグループでの取り組み
- ・ 向こう3軒両隣くらいの範囲での見守り
- ・ 世代を超えた人との交流
- ・ 若い人たちも参加しやすくなるような、以前あった婦人会、壮年会のような活動
- ・ 憩いの家での喫茶、食事の提供などの場づくり
- ・ 町内ごとに特徴があるので、それぞれで集まっただけで何ができるのか話し合う



Cグループの様子

「学区」で

- ・スポーツや遊びを通してつながれる催しの開催
- ・「挨拶運動の展開」をポスターや看板で啓発
- ・市のイベントなどでの地域の活動の紹介
- ・他の学区、市町などで工夫して取り組んでいることを情報交換できる機会づくり
- ・担い手を活かせるリーダーづくり
- ・地域の人と専門職が一緒に高齢者の自宅を訪問
- ・町内会ごとの出来事や取り組みをアピールする新聞の発行



今回の会議のまどめ ～私たちは具体的にどう取り組むか、次回話し合おう～

☑ 昨年からの4回の会議を通して、玉川学区の現状、課題について話し合ってきましたが、今回は、「私たちが何をすべきか、どう取り組むべきか、具体的な取り組み」について話し合います。

☑ 具体的な取り組みについては、各町内会の実状、地域性に応じて、それぞれの町内会で考え、次の会議で話し合います。



「玉川学区・医療福祉を考える会議」では、地域住民と専門機関が、高齢者の暮らしの問題をテーマに、ともに情報や思いを共有することを目的としています。

いつまでも玉川学区で、安心して暮らしていくために、顔の見える関係をつくりながら、高齢者の暮らしの問題や地域のことを「わがこと」として共感していくことを大切にしています。

この会議に参加してくださっている皆様

- ▶ 玉川学区社会福祉協議会
- ▶ 玉川学区民生委員児童委員協議会
- ▶ 桜ヶ丘町内会
- ▶ 野路小林町内会
- ▶ 野路町内会
- ▶ ローレルコート南草津町内会
- ▶ 野路ことびき会
- ▶ 野路小林町シニアクラブ
- ▶ 桜ヶ丘熟年会
- ▶ 玉川学区更生保護女性会
- ▶ 玉川学区健康推進員連絡協議会
- ▶ 日本赤十字奉仕団玉川分団



- ▶ 玉川地域包括支援センター
- ▶ 玉川ヌイルクリニック
- ▶ 特別養護老人ホーム 萩の里
- ▶ 小規模多機能型居宅介護事業所 萩の里
- ▶ ムラセ居宅介護支援事業所
- ▶ よつば訪問看護ステーション
- ▶ 草津市役所地域保健課・長寿いきかい課
- ▶ 草津市社会福祉協議会

第5回 玉川学区医療福祉を考える会議 平成31年2月に開催予定

第15回老上西学区医療福祉を考える会議フオーラム

会議の目的、今回のワークショップについて

「学区」で共通して拳がったまちの強み・課題・夢

ソフト面

ハード面

○15回目を契機に医療福祉を考える会議の拡大として、フオーラムを実施しました。

○日頃、地域でいろいろな暮らしの問題に直面している町内会長をはじめ45人の方々が参加し、老上西学区・各町内会の未来の姿について語り合いました。

○ワークショップでは、町内会ごとに分かれて以下のテーマでワークショップをしました。

- ①強み・いいところ
- ②老上西の課題
- ③こんななまちになつたらいいな
- ④地域の「夢」、こんなことならできる

→学区に共通する思いと、町内会ごとの思いが見えてきました。

強み・いいところ	「夢」 こんなことならできる
老上西の課題	こんなまちになつたらいいな

近所で人と人のつながりがあり助け合える。余暇活動が活発に行われているまち。
若い世代と年配の世代が分かれており、**意見交換する場がない**。
困ったことがあれば相談しやすい。お互いが**助け合えるまち**に。

草津総合病院や**イオン**などの大きな社会資源がある。
交通が不便。身近に買い物が出来る施設が少ない。
路線バスの本数が増えれば、子どもや高齢者が集まれる場所が**あ**れば。
気楽に集まれる喫茶店やサロンにきてもらう。誰でも使える乗り合いタクシーがあるといいな

参加いただいた町内会マップ



町内会ごとのまちの強み・課題・夢

ワークショップの意見をまとめて

【町内会】 グループ名	まちの思い
【矢橋】 夢見るクラフ	旧在所と新しい町が混在。旧在所に若い世代が入りにくい。 ふれあいのある町、趣味やいきがいで集まることのできる。歴史のあるまち。まとまりのある町内。苦情のない町にしたい。 地域の活動に対する補助金がほしい。
【矢橋】 つながりのある矢橋	隣近所で顔の見えるまち。ジョギングに最適などころ。 40数年先の顔なじみの関係が出来ている。ここ数年で生活基盤が出来てきた。開華町と鳩が森でライオンスマイルが変わる。
【ウイリアムズ、橋岡、中津】VHN	戸建て住宅の急増で若い世代や子どもが多い。新しい住宅と古くからの住宅とが分かれている。高齢者のみの世帯が多い。
【おし池、鳩が森】 老上西小南町湖上鉄道	サロンのやいさき百歳体操で集まる場所がある。新と旧の町内で意見交換が少くない。
【東新浜】 クヤけこやけ	
【新浜】 ニュービーチ	

人と人のつながりを守ることが大切。

- ①つながることの効果、必要性を知り、つながることの大事さを共感する。
- ②交流の場、つながるための場づくり

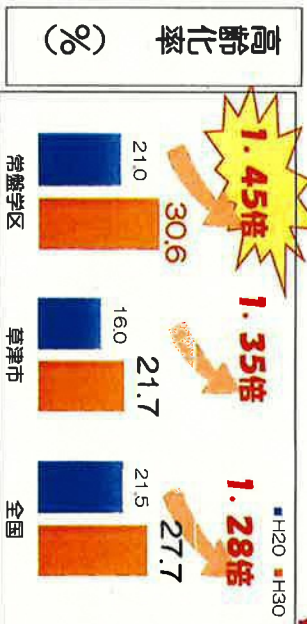
地域にある社会資源を知ろう！

- ③草津総合病院やイオンモールなど、大型施設があり、発想を転換して活用することができないか？現状を見てもみよう。

「いいものはいい」とみんなが伝えていける地域でありたい。強みを強みとして、活かしていきたい。そのことを共感することで未来はもつといいものに変わると信じたいと思いませんか。そんな気持ちをつないでいくことが、「ふだんのくらしのしあわせ」ではないでしょうか。
あなたの夢は何か、その夢の共感の輪を広げることで必ず道は開かれると信じます。夢をかたちにすることは、難しいですが、考え、語り合うことで何かが変わることを信じましょう。夢を共感できたわたしたちは、次の地域福祉の物語へ進んでいきます。

常盤学区では、平成27年度より「常盤学区の医療福祉を考える会議」を開催しており、4年目となります。この会議は、地域住民と医療・福祉の専門機関が、高齢者の暮らしの問題をテーマに、ともに情報を共有し、地域でできることから取り組んでいくことを目的としています。

この会議が必要とされる背景



常盤学区の高齢化率は、草津市全域や全国と比較しても高くなっています。10年前からの伸び率を比較しても、常盤学区は他と比べ、高い伸び率となっております。団塊の世代が75歳以上となる2025年には、常盤学区では3人に1人が65歳以上の高齢者となることが予測されます。

今後、一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、認知症高齢者が増加する中、高齢者が生きがいを持ちながら、住み慣れた地域で自分らしい生活を送るためには、地域とのつながりを深め、「見守り・見守られ」、「支え・支えられる」関係づくりを行っていくことが、上手に介護保険サービスを利用していくことが望まれます。

この会議ではどんなことをしています！

上記を背景とし、高齢になっても、いつまでも常盤学区で、安心して暮らしていくため、顔の見える関係をつくりながら、地域の問題を「わがこと」として共感する場として、「常盤学区医療福祉を考える会議」が生まれました。この会議では、活動を強制的に新たに生み出すのではなく、常盤学区の高齢者の暮らしの問題を知って、よりよい常盤になるために何か必要か、地域主体ですすめていくことを大切にしています。そのため、この会議では常盤学区で活動されている右記の団体の方々をはじめとした地域の皆さんとともに、一緒に取り組んでいきます。

- ▶ 人と地域が輝く常盤協議会
- ▶ 学区自治連合会
- ▶ 学区民生委員児童委員協議会
- ▶ 学区社会福祉協議会
- ▶ 草津市医師会
- ▶ 草津市身体障害者更生会
- ▶ 日赤奉仕団
- ▶ 介護サービス事業所
- ▶ 居宅介護支援事業所
- ▶ 新堂地域包括支援センター
- ▶ 草津市役所（地域保健課・長寿いきがい課）

10月30日に今年度1回目の会議を開催しました

新堂地域包括支援センターより、事例紹介があり、「この事例が自分だったらどうか」という視点で考え、意見交換を行いました。

【認知症と診断された一人暮らしの女性 Aさんの事例】
Aさんは、70歳の頃は、得意の編み物や畑仕事をされており、周りの人たちにも収穫物を配って喜んでもらうことを生きがいにしていました。80歳になると物忘れの症状が出始め、別居している子どもが心配して専門医に受診したところ、アルツハイマー型認知症と診断されました。認知症と診断され、家族が介護保険の申請を行い、デイサービスの利用をすめられました。この時はまだ近所の友人との交流や、老人会、地域サロンにも参加していたため、利用はされませんでした。しかし、81歳の時に、近所の友人が施設に入所されたことをきっかけに、話し相手がいなくなり、趣味だった編み物や畑仕事もしなくなり、どこにも出かけず閉じこもりがちになっていきました。

①「なぜ、デイサービスに行きたくなかったのでしょうか？」



高齢になるほど、新しい場所へ行くのは臆病になるよね。初めの一歩が踏み出せない。

地域とのつながりがあったため、デイサービスに行く必要がない。地域とのつながりを大事にしたかったのでは。

多かた意見

認知症になったとしても、今までと変わらないおつきあい、生活を続けられるといいいな。

②「自分が認知症になっても「行き続けたいところ」「やり続けたいこと」は何ですか？」



- ・友人や地域との関わりを続けたい。
- ・自分の趣味を続けていきたいなあ。
- ・今やっていることが続けられる場があるといい。



- ・近所の仲間と変わらず付き合い合っていきたい。
- ・地域サロンへ行き続けたい。
- ・認知症になったら、したいこともなくなるのでは？認知症のことがよくわからない。

会議では活発な意見交換がされ、常盤学区のみなさんが望む地域の姿がみえてきました。今後は、みなさんが望む常盤学区になるために、何か必要かを考えていきたいと思えます。事例のAさんはあなたの10年後の姿がもしも。あなたが望む生活を現実にしていくために、今から必要なこと、できることはどんなことでしょうか？